

ボランティア活動とヒューマンケア ケア付きねぶた

ケア付きねぶた“じょっぱり隊”の活動が始まって15年目になります。今年は『変わる時代、変わらない絆、そして15年。今この一瞬に命燃やして』をテーマに出陣しました。本学では保健医療福祉特殊講義の単位認定の該当となり、大学をあげてこのボランティア活動をサポートしています。

ねぶた祭本番まで

6・7月 ボランティア養成講座

ボランティア・マインドを有する学生が多い本学ですが、いざ行動!となると、少しの勇気ときっかけ、知識が必要です。そのため6月には、ボランティアの意義、ケア付きねぶたの活動・意義やねぶたの文化・伝統などについて学びました。7月にはボランティア直前説明会を開催し、車椅子の押し方や跳ね方、ボランティアの心得を再認識し、おもてなしの心で参加者と共に楽しむことをモットーに本番に望みます。

▼ボランティア直前説明会



▼15周年記念フォーラム



8月2日 15周年記念フォーラム

15周年記念フォーラムが8月2日(月)に開催されました。
・基本講演「じょっぱり隊は、なにを教えたか」茨城県立健康プラザ管理者 大田 仁史氏
・シンポジウム「じょっぱり隊は、なにを変えてきたのか、なにを生み出していくのか」

8月3日 いよいよ出陣!

「青森菱友会」出陣ねぶた『阿部比羅夫 津軽深浦に立つ』

■じょっぱり隊とは・・・ ケア付き青森ねぶたじょっぱり隊実行委員会は、1996年発足から、年齢や障害の枠を越え、ねぶた祭に車椅子のまま参加できるよう介護・医療・福祉の専門職と多くのボランティアによって支援活動をしています。



NEWシンボル完成!

制作者の彫刻家
向井勝實さん



▶高さ4~8mの青森ヒバ6本で
制作された巨大彫刻

▼彫刻の前でテープカット



光の森プロジェクト 「光の森」除幕式

青森県立保健大学開学10周年を記念し、大間町出身の彫刻家向井勝實さんと本学学生、地域住民が制作した青森ヒバの巨大彫刻「光の森」は、体育館前に設置され、除幕式が6月1日に行われました。制作に携わった学生や地域住民、関係者約100人が新たなシンボルの完成を祝いました。

「光の森」の制作には、約300人が参加して下さいました。